

#22(2023年度第2回) CN専門委員会

2023.10.17
車工会 事務局

第22回(2023年度第2回)CN専門委員会 次第

– 2023年10月17日(火)15:30~17:00

1. 本部委員会活動	15:35~16:15	40分
・CN専門委員会	(15:35~15:40)	5分
・環境委員会	(15:40~15:55)	15分
・中央業務委員会	(15:55~16:00)	5分
・広報委員会	(16:00~16:10)	10分
・中央技術委員会	(16:10~16:15)	5分
2. 部会活動	16:15~16:45	30分
3. 支部活動	16:45~16:55	10分
4. まとめ	16:55~17:00	5分

<2023年度活動計画 具体的推進事項1>

カテゴリー		活動計画	目標 (各委員会で設定)	役割分担	
0	社外との連携	<ul style="list-style-type: none"> 自動車5団体活動との連携 (CN合同事務局 他) モビリティ委員会 (経団連) CJPT、自工会との連携 (電動化の技術情報) JTP連携 (自工会) 	継続	本部委員会への展開と会員への有益情報のフィードバック	CN専門委員会 (増井委員長)
1	現状把握	<ul style="list-style-type: none"> CNアンケート調査、困り事の吸上げ 集計結果の分析、各委員会、部会への展開 	継続	回答100%	中央業務委員会 (矢野委員長)
		<ul style="list-style-type: none"> 取組み内容の検討 事業計画の見直し、項目追加 	拡大	寄り添った対応	各委員会 各部会・各支部
2	理解活動	<ul style="list-style-type: none"> CN取組み事例の情報収集 (会員からの収集) 	拡大	好事例の収集	各部会・各支部
		<ul style="list-style-type: none"> CN取組み事例集の作成 	強化	年度中の展開	環境委員会 (吉村委員長)
		<ul style="list-style-type: none"> 好事例の会員への情報展開 	継続	HPで開示	広報委員会 (吉村委員長)
		<ul style="list-style-type: none"> 会員のCN取組み紹介 	新規	好事例の展開	広報委員会 (吉村委員長)
		<ul style="list-style-type: none"> CN勉強会開催、セミナー・講演会の開催 CN勉強動画の作成と会員への展開 	継続	<ul style="list-style-type: none"> 入門編 4回/年、実践編 12回/年 Youtube動画の視聴数増 	CN専門委員会 (増井委員長)

<2023年度活動計画 具体的推進事項2>

カテゴリー		活動計画	目標 (各委員会で設定)	役割分担
3	計画支援	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の算出依頼 継続 ・集計結果の分析 (増減、再エネ率 他) 強化 ・ // 層別、規模感FB 	全会員フォローアップ 100%	環境委員会 (吉村委員長)
		<ul style="list-style-type: none"> ・LCA評価ツールの検討 継続 	自工会LCA分科会への参画	CN専門 (増井委員長) 環境 (吉村委員長)
		<ul style="list-style-type: none"> ・LCA評価ツールの会員への展開 新規 	車工会版の策定	環境委員会 (吉村委員長)
		<ul style="list-style-type: none"> ・商用車電動化への対応 (高電圧対応、動力源対応) 継続 	課題把握と対応 CJPT連携での課題解決	中央技術委員会 (布原委員長)
		<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル等のルール策定 継続 	好事例集の展開	環境委員会 (吉村委員長)
		<ul style="list-style-type: none"> ・車工会目標の展開と推進方法の支援 強化 	目標設定会員 増	環境委員会 (吉村委員長)
4	実行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・現地現物での具体的な取組み支援 継続 	診断と削減支援 5社	環境委員会 (吉村委員長)
		<ul style="list-style-type: none"> ・会員間の意見交換会を開催し、問題解決 新規 	開催 実施率100%	CN専門委員会 (増井委員長)
		<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー、CO2の見える化支援 新規 	管理表フォーマットの作成と提供	環境委員会 (吉村委員長)

1. 本部委員会活動

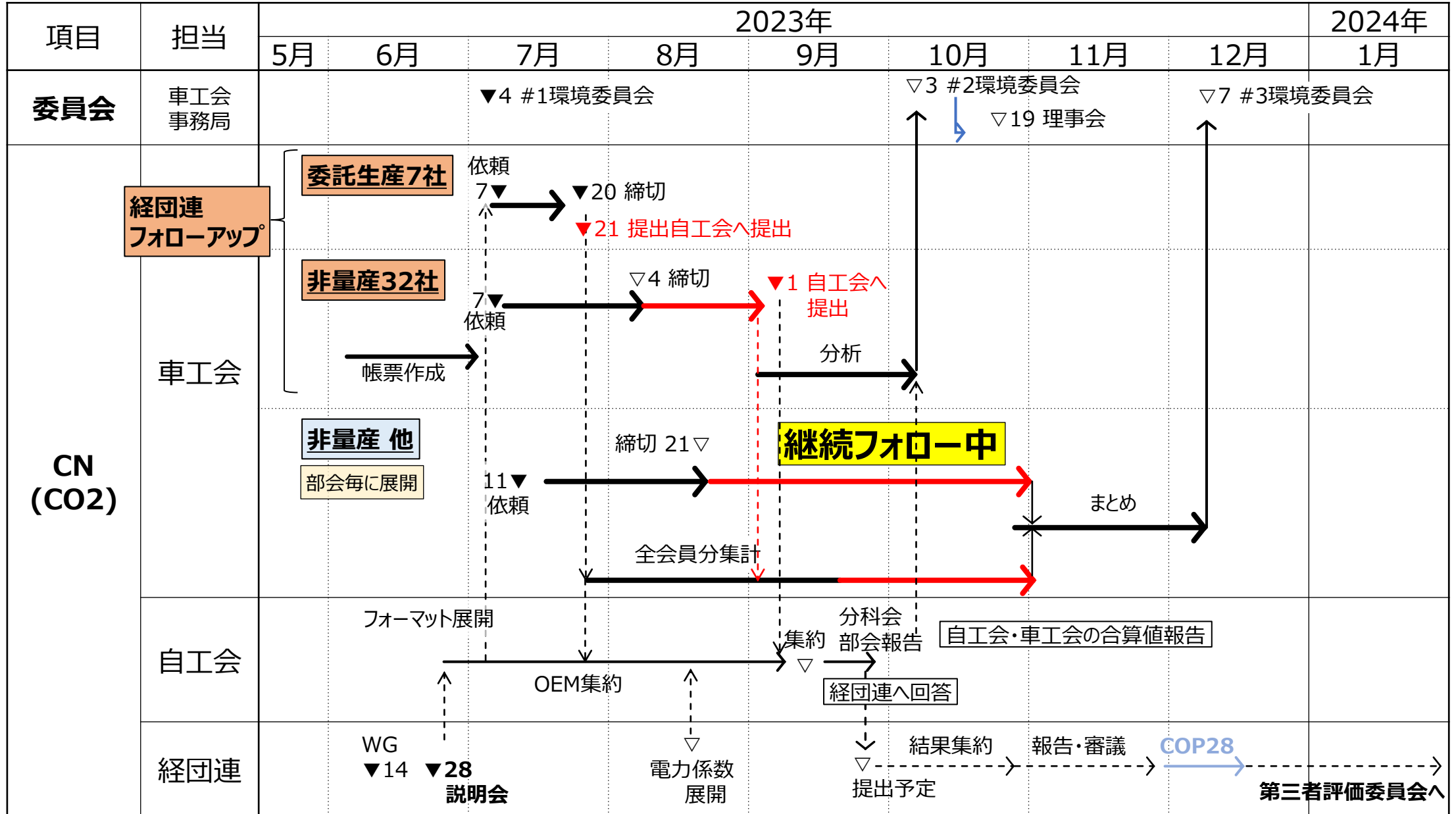
1. 本部委員会活動 <CN専門委員会>

カテゴリ	実施事項	担当	2023年									2024年			
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	本部委員会との連携	CN 各本部委員会	活動計画 分担(案)展開	●17 ↓ 検討	●29 ↑ 報告			活動実施		●17 ↑ 報告	○14 ↑ 報告	次年度計画 →			
外部連携	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車5団体 ・経団連モビリティ委員会 ・CJPT、自工会との連携 (中央技術委員会) ・JTP連携 (環境委員会) 	CN	都度 (内容により各委員会に協力依頼) →												
					◇CJPT 6/13					◇モビリティ委員会10/5	◇CJPT日程調整中				
理解活動	<ul style="list-style-type: none"> ・CN勉強会、セミナー等の開催 ・CN勉強動画等の会員展開 	CN	入門編	●25	●29	●27			実践編 ●26	○23	○	○	○	○	○
			●入門編動画 3部作 車工会HP掲載	入門・実践講師調整 →											
			動画作成・公開【入門編】	【入門編】勉強会 → 動画展開検討 (動画の視聴数UP)											
				セミナー検討 →						○セミナー開催(仮)					
計画支援	LCA評価ツールの検討	CN 環境	<ul style="list-style-type: none"> ・LCAWG: 木材架装CO2調査結果 自工会との共有 ・ジェイ・バス、日本刀川-7、山田車体工業 	●16	●28			●13	自工会LCA分科会への参画、情報収集 (環境委員会と協力し対応) →						
実行支援	会員間の意見交換会	CN					実施内容検討	募集	準備	○開催(仮)	課題集約	対応策検討 →			

1. 本部委員会活動 <環境委員会>

カテゴリ	実施事項	担当	2023年										2024年		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	本部委員会	CN 環境			● 29 ● 4					● 3	● 17	● 7			● 5
理解活動	CN取組み事例集の作成	環境			(部会・支部)	好事例収集	集約・層別、HP開示 (広報)	フォーマット検討	事例集作成						
計画支援	CO2排出量の算出 集計結果の分析	環境			調査依頼・集計	分析・目標進捗確認、会員フィードバック	自工会へ提出	全会員調査フォロー継続中							
	LCA評価ツールの検討 会員への展開	環境	● 6		(自工会LCA分科会)	LCA分科会への協力と情報収集	検討・標準化	● 16	● 28	● 13 木材調査終了			車工会版の検討		
	リサイクル等のルール策定	環境				易解体性設計の事例収集と資料化									
実行支援	目標展開と推進方法支援	環境				目標値の展開と推進支援							推進事例展開		
	現地現物での具体的な 取組み支援	環境			支援先選定	架装物・工場環境の両分科会で連携し訪問支援									
	エネルギー、CO2の 見える化支援	環境			管理フォーマット作成・展開 (CO2排出量調査帳票)	(分析WG活動)	見える化帳票検討	展開							

1) 2023年度 CO2排出量調査スケジュール

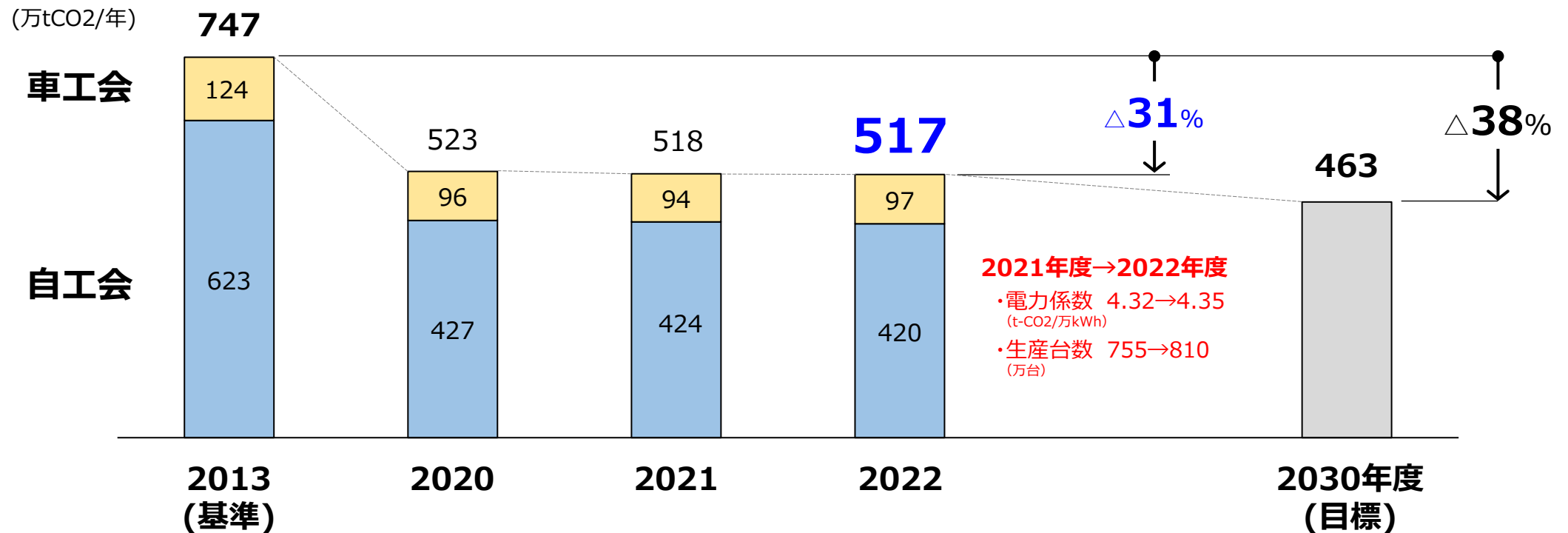


2) 経団連フォローアップ CO2排出量調査結果

① 自工会 + 車工会39社※合算値

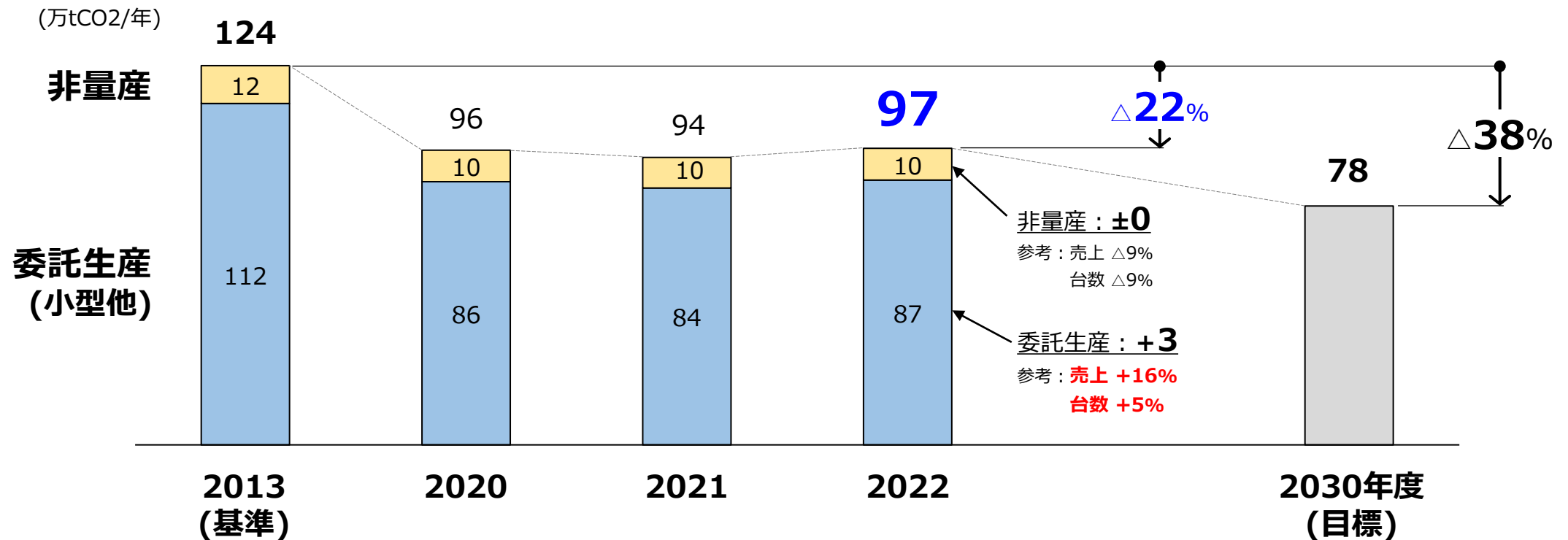
※売上高カバー率95%以上

- ・ 2022年度実績値 **517**万tCO₂ [対前年度 Δ **1**万tCO₂/年(Δ **0.2%**)]
- ・ 前年度に対し **電力排出係数が悪化** : +2万t **自助努力** : Δ **11**万t **生産台数増・調達改善** : +8万t



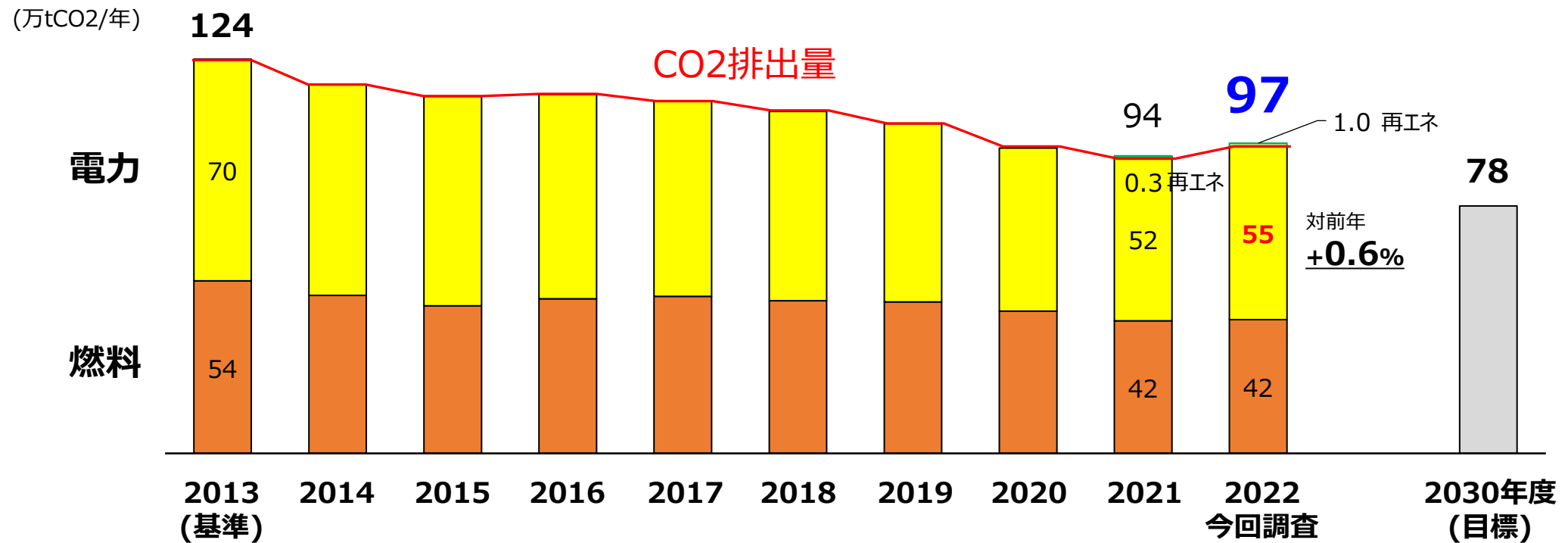
② 車工会のCO2排出量

- ・ 2022年度実績値 **97**万tCO₂ [対前年度 +**3**万tCO₂/年(+**3.1**%)]
- ・ 前年度に対し **電力排出係数が悪化** : +**0.4**万t **生産台数増・自助努力** : +**2.6**万t



③ 車工会のCO2排出量（エネルギー内訳）

- ・ 電力使用量が増加 **+4,600**万KWh/年
- ・ 電力排出係数の変動（**4.32** → **4.35**t-CO2/年）



【事例WG】 取組み事例集の作成

活動実績 #1 : 8/22 (火) 、 #2 : 9/12(火)

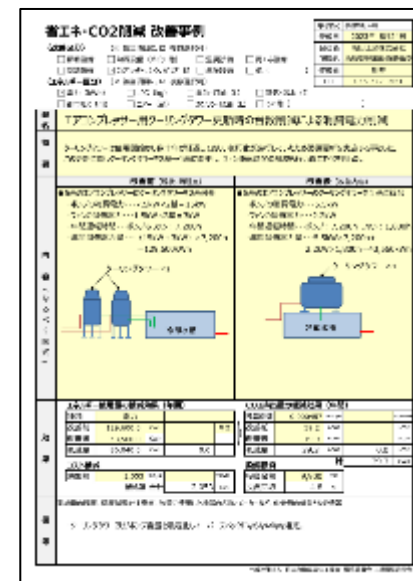
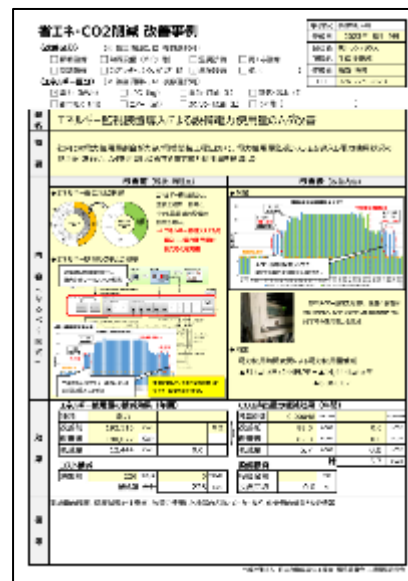
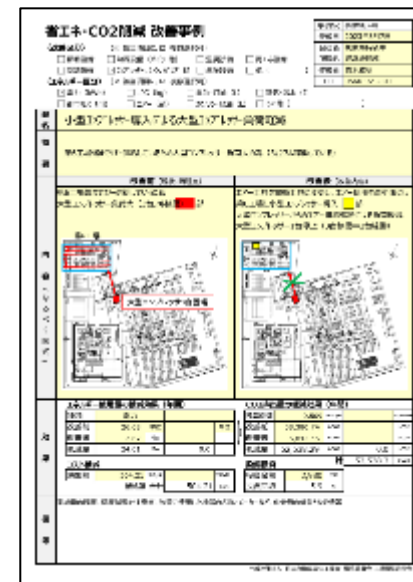
- 今まで
 - ・事例収集 → 記入用紙の改善（見易く、書き易く）
 - ・HPに掲載 → CN専用ページ（検索し易くカテゴリ分け）

- 取組み 車体工業会の会員が、CNに取組む際に参考書の様に活用でき、容易に実行へ移るためのツールの作成を検討する

- 内容(案)
 - ・【基礎理解】 CNに取組む必要性を理解する
 - ・【取組方法】 何から取組むか理解する
 - ・【推進方法】 取組む順番（PDCAサイクル）を理解する
 - ・【具体事例】 各プロセスでの実施事項を理解する
 - 推進体制や活動企画
 - エネルギー測定方法、見える化の方法
 - 省エネ事例（設備改善や日常管理方法見直し 他）

提供数 **42**件（10/17現在）

- ①**照明設備 16**件
 - ・工場照明のLED化、水銀灯をLED照明に変更 他
- ②**空調設備 4**件
 - ・熱風循環ダクト改修、加温機の取廻し変更による電力低減 他
- ③**コンプレッサー、ファン、ポンプ 他 5**件
 - ・小型コンプレッサー導入による大型コンプレッサー負荷軽減 他
- ④**監視設備 4**件
 - ・エネルギー監視装置導入による設備電力使用量のムダ改善 他
- ⑤**生産設備 4**件
 - ・レーザー加工機の電力使用量削減 他
- ⑥**再エネ設備 2**件
 - ・太陽光発電設備の導入
- ⑦**その他 7**件
 - ・電力会社の変更、CNプロジェクト活動 他



車工会HPのCNページに掲載予定

■ 今年度の調査データを基に、省エネ低減量を確認

2030年までに△38%の目標に対し

- 全体で何%の削減が出来たか？
- 会員別省エネ目標の達成度は？
(委託生産△2%/年、非量産△1%/年)

※現状の分析は、生産台数増減・電力排出係数くらい・・・

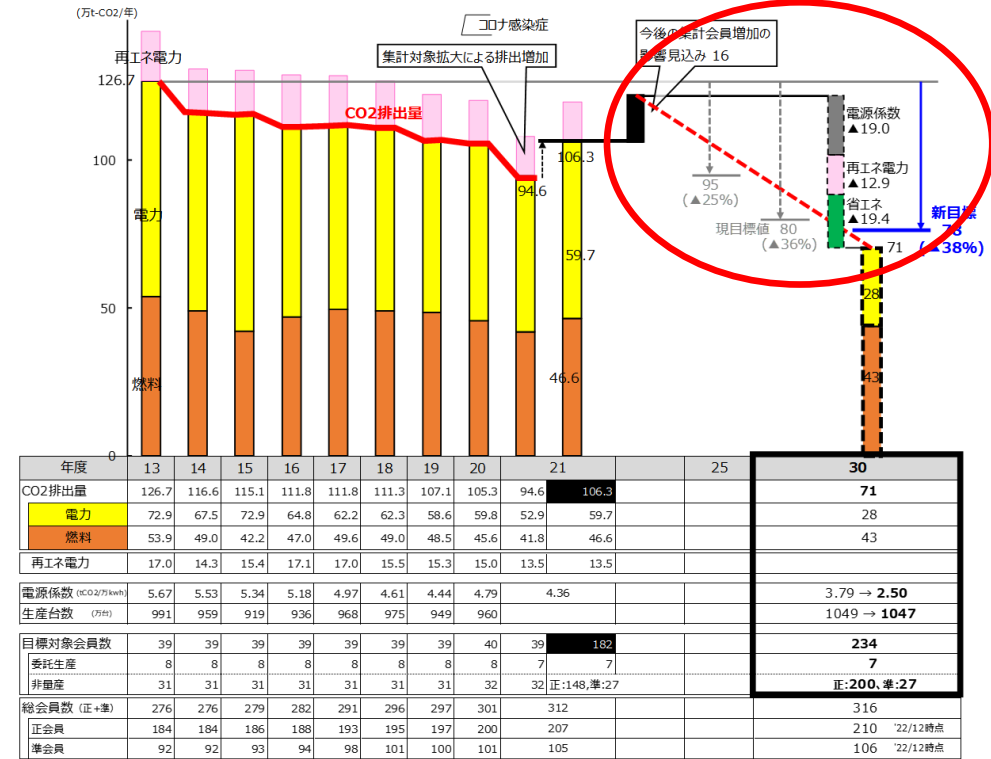


分析することで、

■ 省エネ活動が出来ない会員への展開

- ・車工会全体で省エネがどれくらい出来たかまとめ、結果を会員へ展開（部会毎など）
- ・改善実績の提出がないところへ、省エネ活動促進 & 見える化依頼

この分析が重要
(電力係数、再エネ、省エネ)



【支援WG】 現地訪問活動

1) 目的

各社の環境取組みを、『**現地確認**』『**意見交換**』を行うことで、**困り事や課題を解決**につなげ、**好事例展開**

2) 概要

- ・CN勉強会への参加や、CNアンケート回答で、前向きに取組みを進める意欲ある中小会員を選定
- ・一方的な指導ではなく、同じ目線で会話しながら困り事や課題を一緒に考え、事例紹介やアドバイスを行う

昨年度の意見交換の継続として現地確認及び支援、『 設備運転方法、太陽光発電の導入検討等 』のアドバイス										
部会	会社名	入会	所在地	支部	CNアンケート コメント			勉強会	コメント	
1	トラック	山田車体工業(株) 11/6(月)13:00~	1959年	静岡県 沼津市	中部	CN理解し 取組み中	エネルギー 伝票管理	老朽化した建物・設備の修繕、更新（省エネ化含む）と昨今の諸費用高などに伴う工事費の高騰が課題	入門編 (5回) 実践編 (1回)	大企業の事例だけでなく、 企業規模に合わせた、具体的な取組や成果が聞きたい また、各事業所によって冷暖房使用の電力使用量があるため、取組み事例を知りたい
現在進めている省エネ活動を確認し、更に『 日常業務で取り組める事例 』をアドバイス										
部会	会社名	入会	所在地	支部	CNアンケート コメント			勉強会	コメント	
2	トラック	(株)いそのボデー 11/28(火)13:00~	2007年	山形県 山形市	東北	理解してる がまだ取組 んでいない	伝票管理	専任者として人材の確保が難しい 具体的な他社事例などを参考に取り組みで行きたい、良い事例などがあれば展開を希望	入門編 (1回)	エコアクションで環境に対する取組みを行っており、 今後さらにエネルギー削減に力を入れていきたい
寒冷地ならではの困り事を把握、特種部会での紹介事例内容を確認										
部会	会社名	入会	所在地	支部	CNアンケート コメント			勉強会	コメント	
3	特種	札幌ボデー工業(株) 調整中（冬季の訪問を検討）	1948年	北海道 札幌市	北海道	理解し 取組み中	伝票管理	照明のLED化やガス転換などCNに取組むも、 寒冷地のため冬期暖房使用しており、CN削減に一定程度の限界がある	入門編 (1回)	工場と事務所すべての照明をLEDに変更、電気使用量は削減できているが、暖房設備の更新などは計画がない CNにつながる設備導入を計画していきたい

2) 自工会LCA分科会との連携

■ 目的

各社の環境負荷低減の取り組みが公平に評価できる

自動車LCA手法の明確化

■ 実施内容

① **LCA算出手法**の検討（JAMA法の改定）と共有

② 部品・素材ごとのLCA算出原単位設定のため、**自工会の調査へ協力**

(1)「材料」「製造運輸」「使用」「廃棄」の領域において調査

(2)代表架装物『**バン、平ボデー、バス**』を**選定**

(3)**日本フルーフ、山田車体工業、ジェイ・バス**が協力

(4)大型車の材料種類とその原単位設定

(乗用車の材料種類との相違)

(5)商用車で**使用重量が多い木材**を指定し調査

自工会打合せ資料（22年1月）

Confidential 

CNの取組が評価できるLCA評価手法へ

※青字：1次データ

		材料取得	製造	輸送	使用	廃棄
2011年 JAMA法	活動量	素材重量[kg] 歩留まり率[%]	加工重量[kg]	輸送重量[kg]	燃費[km/L] 電費[Wh/km] 生涯走行距離[km]	車両重量[kg]
	原単位	素材原単位 [kg-CO2e/kg]	加工原単位 [kg-CO2e/kg]	輸送原単位 [kg-CO2e/kg]	燃料原単位 [kg-CO2e/L] 電力原単位 [kg-CO2e/kWh]	廃棄原単位 [kg-CO2e/kg]

活動量（車の重量）はゼロにならないので、ゼロになり得る原単位の構築が必要

		材料取得	製造	輸送	使用	廃棄
新コンセプト (案)	活動量	素材重量[kg] 歩留まり率[%]	加工エネルギー量 [kWh]	輸送重量[kg] 輸送距離[km]	燃費[km/L] 電費[Wh/km] 生涯走行距離[km]	リユース重量[kg] リサイクル重量[kg] 廃棄重量[kg]
	原単位	素材原単位 [kg-CO2e/kg]	エネルギー原単位 [kg-CO2e/kWh]	輸送原単位 [kg-CO2e/kg/km]	燃料原単位 [kg-CO2e/L] 電力原単位 [kg-CO2e/kWh]	リユース原単位 [kg-CO2e/kg] リサイクル原単位 [kg-CO2e/kg] 廃棄原単位 [kg-CO2e/kg]

※一部省略して記載

原単位の1次データ化 or ゼロとなる2次データを選択できる仕組みの構築が必要
⇒ 原単位の刷新・日本だけに留まらない各国データが必要

Copyright© Japan Automobile Manufacturers Association, Inc. 16

連携の
当初の想い

自工会：商用車の**架装部分**については**未把握**のため、車工会と連携したい
車工会：架装物は種類が多いため、代表的な車種に絞り込み調査

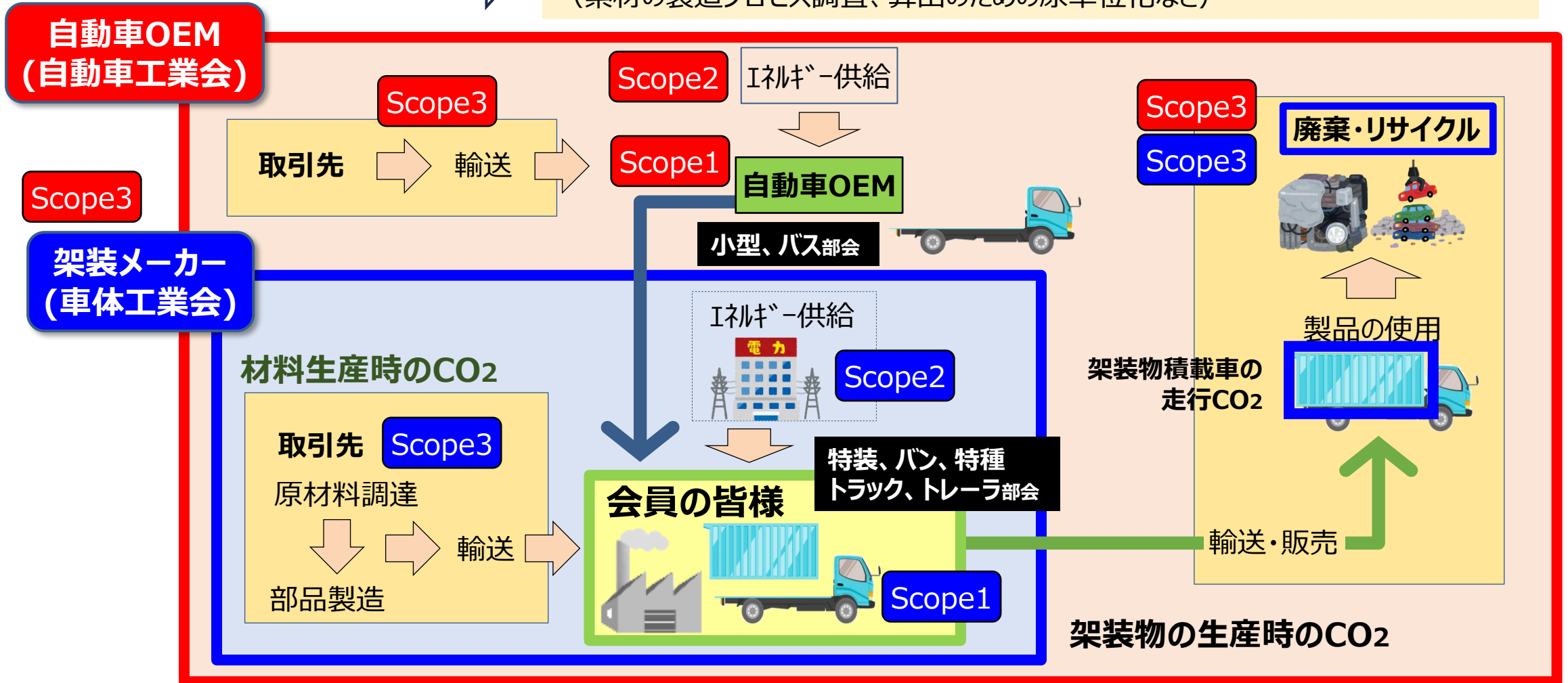
3) 自工会LCA分科会との連携結果

- ① 当初は赤枠内を対象に自工会のLCA手法改定を目的に連携開始。
- ② 実態は青枠を除き実行（木材は、OEM製品のバスなど、両会共通素材である）



架装物としての会員製品は車工会で推進する必要あり

（素材の製造プロセス調査、算出のための原単位化など）



4) 車工会の課題

(※自工会の考え方：代表的な車を標準車と決め、素材、部品ごとにライフサイクルで調査し原単位化)

車工会：①素材、部品も**自工会と共有できないものが多数**(薄板の自動車鋼板≠ダンプ車の厚板鉄板)

(架装物) ②会員の数だけ製品があり、**代表製品の選定が困難**

③架装物は「車にあらず」で、**廃棄・リサイクルの実態がつかめていない**

NO	調査項目	①	②		③
		材料	製造輸送	使用	廃棄
1	現在の材料種類、使用量 ・1)木材：アピトン材/杉アカマツ/パーティクルボード、2)床裏防錆材、3)空調カバー-GFRP、4)冷媒HFC134a	○			
2	マテリアルフロー（およそ国内外からの調達割合、調達先/架装メーカー）	○			
3	代表的な製造工程（材料購入～製品出荷まで）		○		
4	製造時のエネルギー使用量(電気等)からCO2算出（製品重量で割り算することで、平均加工原単位の算出） ・加工原単位(kgCO2/kg) = CO2値 ÷ 製品重量		○		
5	製造時の平均歩留り		○		
6	製造時に発生する廃棄物の種類と量		○		
7	トラック・バスの架装部分の寿命 ・OEM製造のシャシボディーに対して バス、トラックの 架装部分全体の寿命の知見			○	
8	トラック・バスの架装部分の保守部品について ・バス、トラック架装部品で定期交換部品や状況により必ず交換する保守部品の有無、頻度			○	
9	製造工程から発生するスクラップについて（新しい材料リサイクル評価(CFF)を適用） ・排出(売却)している工程スクラップ（鉄、アルミ、銅）の、種類、発生量、リサイクル先、工程からの回収率 スクラップ品質、排出工程の環境負荷のデータ				○

<議論のポイント>

1. 本部委員会活動

- ・委員会の活動内容共有
- ・LCAは、想定を上回る困難さが今回判明 ⇒ 今後**CN専門委員会**・**環境委員会**等で、**進め方・推進体制**等検討

2. 部会活動

- ・部会毎に適した進め方

3. 支部活動

1. 本部委員会活動 <中央業務委員会>

1. 2022年度CNアンケートからの困りごと対応：担当委員会で既に対応済み

- ①人材不足：現地・現物での支援、見える化支援、事例提供【環境委員会】
- ②資金不足：補助金、助成金、税制優遇情報のHP掲載 【広報委員会】
- ③進め方がわからない：勉強会の開催（入門編・実践編）【CN専門委員会】
- ④社内へのCN意識の浸透が難しい：勉強会の開催（入門編・実践編）
【CN専門委員会】

2. 2023年度CNアンケート実施状況

#2業務委員会(10/6)で内容を決定し展開、**集約中**（～11/10）

- ・質問項目は昨年と同様
- ・各社の困りごとは、記述式⇒**選択＋記述式**に変更
- ・車工会のCN活動は、勉強会とCN HPの周知度をそれぞれ確認する方式に変更

1. 本部委員会 <広報委員会>

カテゴリ	実施事項	担当	2023年										2024年			
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
イベント	通常総会、常任委員会、理事会 各委員会 他	各委員会			◎ #1CN専門委員会						◎ #2CN専門委員会			◎ #3CN専門委員会		
理解活動	・CN取組み事例 事例集	部会・支部 環境														
	・好事例の会員への情報展開	広報			◎29 #1広報委員会				◎1 #2広報委員会			◎28 #3広報委員会				◎1 #4広報委員会
					事例収集 (委員会、部会、支部等)			事例収集 (委員会、部会、支部等)			事例収集 (委員会、部会、支部等)			事例収集 (委員会、部会、支部等)		
						HP掲載		HP掲載			HP掲載			HP掲載		
	・会員のCN取組み紹介	広報			◎29 #1広報委員会			◎1 #2広報委員会			◎28 #3広報委員会					◎1 #4広報委員会
						好事例のピックアップ		好事例のピックアップ			好事例のピックアップ			好事例のピックアップ		
						掲載方法検討		掲載方法検討			掲載方法検討			掲載方法検討		
					委員会事例の収集			掲載方法検討・個別取材			HP掲載			HP掲載		
								HP掲載						HP掲載		

部会	会社名	事例概要		資料	次ステップ移行
委員長	日産車体(株)	電力監視モニターによる電力使用量の見える化	社内で使用する電力について、設備やフロア、用途などで区分して使用量を社内イントラで確認できる電力監視モニターを設置し、各々の使用量やムダな電力使用が容易に確認可能	A	○
特装	極東開発工業(株)	①社内勉強会 ②エアコンプレッサ更新省電力化	①車工会開催の勉強会を社内展開 ②最新設備への更新に伴う消費電力の削減	B	①× ②△
特種	(株)河野ボデー製作所	レーザー加工機更新による消費電力低減(2024/1～)	CO2レーザー加工機をファイバーレーザー加工機に変更することで消費電力を低減	G	○
トラック	山田車体工業(株)	最新の業務用エアコン導入による消費電力の削減	自治体の中小企業等省エネ設備導入促進事業費補助金を活用し、7台のエアコンを代替	C	△
バン	日本フルハーフ(株)		次回委員会までに提示		
トレーラ	日本トレクス(株)	フォークリフトのディーゼル車から電動車への転換更新による省エネ・CO2削減	工場内で使用しているフォークリフトを更新する際にディーゼル車から電動車に切り替えることで省エネ効果とCO2削減効果を出す。	D	○
バス	ジェイ・バス(株)	・取組み切り口紹介 ・照明LED化	・日常改善活動、再生可能エネルギー導入、革新技术の導入 ・工場内蛍光灯LED化	E	△
小型	トヨタ自動車東日本(株)	事務所における待機電力の低減活動の徹底について	在籍部署単位で推進していた事務所の待機電力低減を電源OFF可能な設備や機器を再点検し、更なる待機電力を低減した。	H	△
資材	スリーエムジャパン(株)	サイエンスで気候変動に貢献	・温室効果ガス2030年までに2019年比50%削減 ・エネルギー効率30%改善(2025年) ・再生エネルギーの使用(2025年までに50%) ・環境ソリューション製品の取り扱い ・VOC削減	F	△

1. 本部委員会 <中央技術委員会：商用車電動化対応 2023年度スケジュール> 26/47

項目	当会からの要望	共有課題	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	FY24
代替能力	<ul style="list-style-type: none"> 電動PTOの設定 24V電源/電力の残置 冷凍コンプレッサ駆動用動力の確保 	電動PTOの特性及びレイアウト				情報収集と対応	
		架装物レイアウト成立性				情報収集と対応	
		電力供給のみとした場合の対応					
通信制御	<ul style="list-style-type: none"> 当面のアナログ信号 CAN通信化時の仕様 	シャシ側アナログ信号対応					
		CAN通信化のタイミング					
		通信制御信号詳細の整合				情報収集と対応	
電力消費最適化	<ul style="list-style-type: none"> 安心して電動化車両を使用できるエネルギーマネジメント 電力供給の要望確認 	架装物毎の必要電力量					
		安全確保、運搬物保護に必要なドライバー裁量への対応					
		コネクテッド技術の有効活用					
架装物締結	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; color: red; font-weight: bold;"> 10/2中央技術委員会にて確認 10/16会員展開済 </div>	シャシレイアウト・架装物締結				情報収集と対応	
作業者への高電圧教育対応		情報整理と会員展開					
工場内高圧ガス法規への対応		情報整理と会員展開					
架装車両への充電・水素供給の設備		情報整理と会員展開					
架装資料記載内容						情報収集と対応	
関連法規	<ul style="list-style-type: none"> 関連法規明確化 	R10（電磁両立性）		情報整理と会員展開			
		R100（電気パワートレイン）		情報整理と会員展開			
		R155/156（サイバーセキュリティ）	既存電気接続の継続活動と新規電気接続への対応				

7/3中央技術委員会にて確認
 7/21会員展開済

自工会と継続協議中

CJPTとは四半期ごとに定例会議をもち相互の情報共有を図る

高圧ガスに関する法令と対応

まとめ ver1

- ・ トヨタ自動車販売店で対応している法令と対応を整理
- ・ 現在、高圧ガス保安法と道路運送車両法との運用見直しが行われていることもあり、今後、法令見直しへの対応と追加項目がないか検討し、必要ならver2を発行

項目

- 高圧ガス**製造**に関する法令と対応
- 高圧ガス**貯蔵**に関する法令と対応
- 高圧ガス**法定置場距離**に関する法令と対応

製造に関する法令と対応

法令	内容と対応		
高圧ガス保安法 5 条 定義： 圧縮・液化その他の方法で人為的に高圧ガスの状態をつくること	ガスの種類	手続き	
		第一種製造者	第二種製造者
	都道府県知事への許可が必要	都道府県知事への届出が必要	
	第一種ガス	300m ³ /日以上	300m ³ /日未満
	第二種ガス	100m ³ /日以上	100m ³ /日未満
	第一種と二種の両方	処理量の合計と計算式を比較	
<p>※販売店での対応は、高圧ガス製造事業届第二種 ⇒架装メーカーでも同様の対応が必要と考えられる</p>			

※ 第一種ガスとは

- ・不活性ガス（ヘリウム、ネオン、アルゴン、クリプトン、キセノン、ラドン、窒素、二酸化炭素、フルオロカーボン（可燃性除く。））又は空気（高圧ガス保安法施行令）

※ 第二種ガスとは

- ・可燃性ガス（水素）、毒性ガス

貯蔵に関する法令と対応

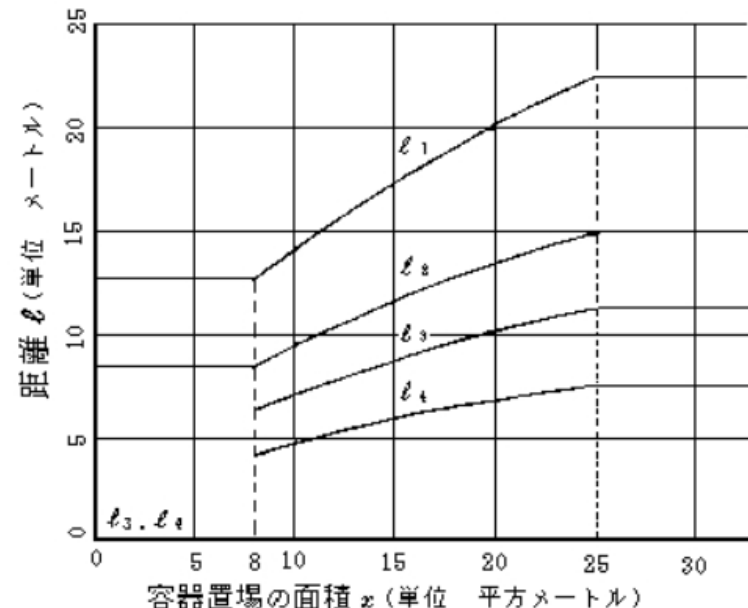
法令	内容と対応					
高圧ガス保安法 15条、16条 定義： 一定の場所に概ね2時間以上の高圧ガスを停滞させること	ガスの種類	手続き				貯蔵の規制外
		第一種貯蔵所 都道府県知事への許可が必要	第二種貯蔵所 都道府県知事への届出が必要	その他貯蔵所 手続き不要		
	第一種ガス	3,000m ³ 以上	300m ³ 以上 3,000m ³ 未満	0.15m ³ 以上 300m ³ 未満	0.15m ³ 未満	
	第二種ガス	1,000m ³ 以上	300m ³ 以上 1,000m ³ 未満			
	第一種と二種の両方	処理量の合計と計算式を比較				
	<p>※販売店での対応は、300m³未満に管理することで届出不要 ⇒架装メーカーでは、FCVE商用車のタンク容量及び架装台数により届出必要かの判断を実施</p>					

法定置場距離に関する法令と対応

法令	内容と対応		
一般高圧ガス保安規則 第6条	建物と容器置場（貯蔵設備を除く）の距離（置場面積で距離が変わる：下図）		
	第一種置場距離	12.8m～22.5m以上	下図 ℓ_1
	第二種置場距離	8.5m～15m以上	下図 ℓ_2

※ 第一種置場距離とは、下記第一種保安物件までの距離

- ・学校教育法に定める、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校、特別支援学校、幼稚園
- ・医療法に定める病院（20人以上の患者を入院させるための施設を有するもの）
- ・収容定員300人以上の劇場、映画館、演芸場、公会堂その他これらに類する施設
- ・収容定員20人以上の生活保護法の保護施設、児童福祉施設、老人福祉施設、介護老人保健施設、身体障害者厚生援護施設、母子福祉施設等
- ・重要文化財、重要有形民俗文化財、史跡名勝天然記念物若しくは重要な文化財として指定された建築物
- ・博物館
- ・1日に平均2万人以上の者が乗降する駅の母屋及びプラットホーム
- ・百貨店、マーケット、公衆浴場、ホテル、旅館その他不特定多数の者を収容する建築物であって、その用途に供する床面積の合計が1000m²以上のもの



※ 第二種置場距離とは、下記第二種保安物件までの距離

- ・第1種保安物件以外の建築物で、住居の用に供するもの、つまり民家やアパート

R 1 0（電磁両立性）法規内容と対応

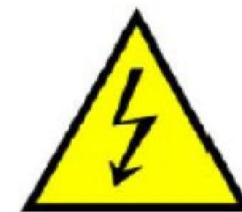
まとめ

- ・ 架装物は、当分の間、対象外

R100（電気パワートレーン）法規内容と対応

まとめ

- ・ 2016年（平成28年）6月22日以降生産車から適用している
- ・ 架装物も対象ではあるが、車両メーカーが指示する架装要領書等に基づいて感電保護を施行したものはUN-R100適合
- ・ 架装要領書記載内容を遵守（以下は記載事例）
 - R100の高電圧に伴う感電保護に対応すること
 - ・ 高電圧回路用ケーブルはオレンジ色とする
 - ・ IPXXBグローブを用い、活電部への直接接触なきこと
 - ・ 露出導電部は間接接触からの感電を防止するためフレームへ確実に接地すること
 - ・ バリア・エンクロージャに関しては右記シンボルを視認可能な部位に貼り付けること



<議論のポイント>

1. 本部委員会活動

- ・委員会の活動内容共有
- ・LCAは、想定を上回る困難さが今回判明 ⇒ 今後**CN専門委員会・環境委員会**等で、**進め方・推進体制**等検討

2. 部会活動

- ・部会毎に適した進め方

3. 支部活動

2. 部会活動

2. 部会活動 < #21CN専門委員会 提案 >

・2023年度は**CN活動を部会活動へ浸透・部会の主活動**として定着させたい

①本部委員会主導の**具体的活動は部会毎に展開・集約**

1)本部委員会から発信の**CNアンケート、CO2排出量調査、事例回収の精力的推進**

2)CN推進における会員の**困りごと集約と対応案の提案**

⇒対応を**層別**（**部会**で対応 or 環境委員会等他の**委員会に依頼**）

②各部会内にCNを**議論・フォローする機会・体制**を設置

・四半期毎の部会で議論（例：特種、トラック、バン）

・技術委員会 or 業務委員会内の業務に追加（例：特装、トレーラ）

■ 調査対象

正会員：205社/211社 【他団体所属、アンケート辞退会員を除く】

準会員：27社/105社 【他団体所属の会員を除く】

合計：232社

■ 部会別回答状況（10/17現在）

回答：165社 [71%]

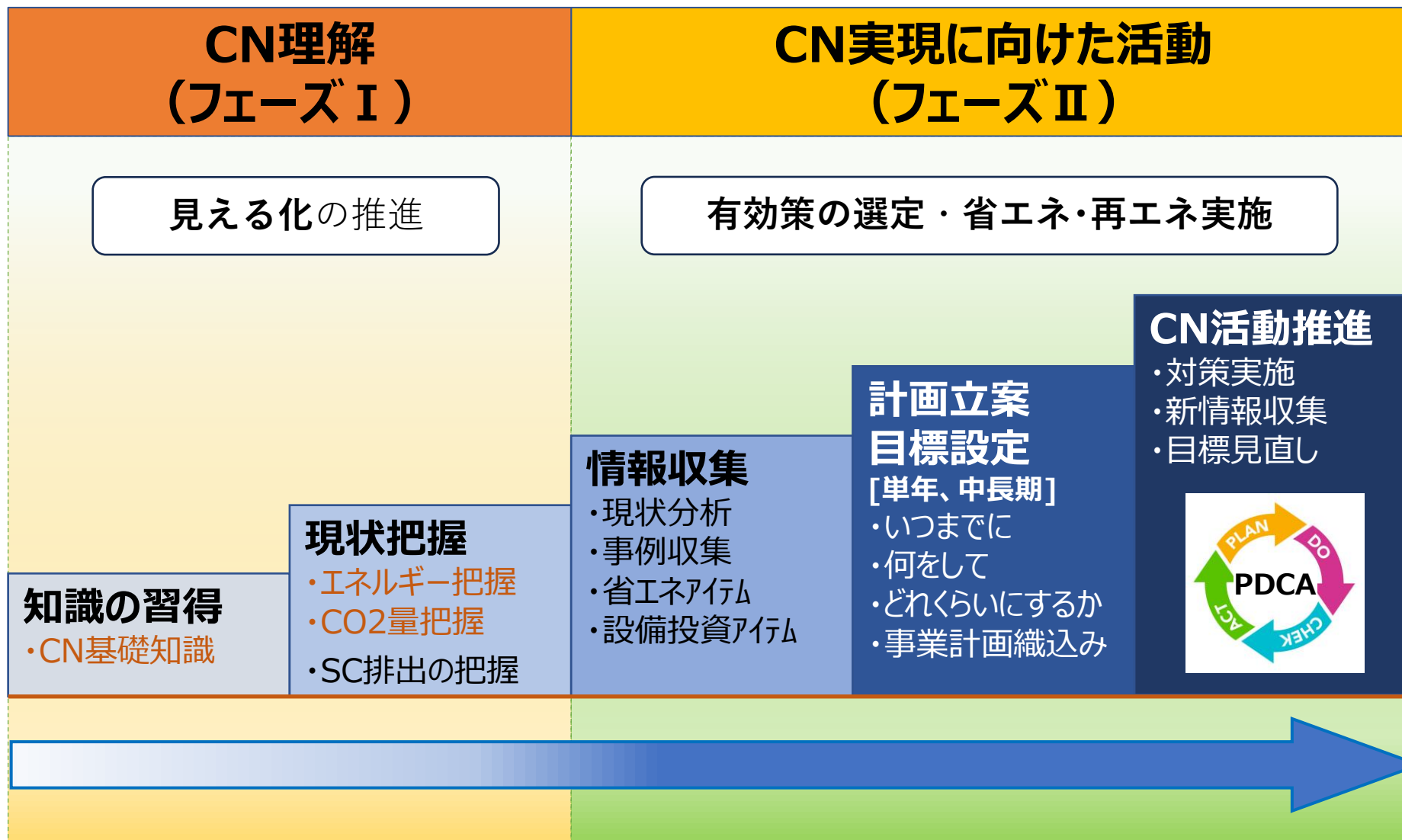


<考え方>

- ・2030年、2050年での継続的な成長・発展のため、CN対応への取組みが
当会**全会員に必要**であり、**部会単位での活動波及が効果的**と考えられる
- ・部会毎に**部会の態勢・実状**に応じ進める ⇒ **部会毎に適した進め方**を検討
 - CNへの**理解**を部会会員へ促進（フェーズⅠ）
 - CN**実現に向けた活動**へ移行（フェーズⅡ）

<車工会のCN推進>

「CN理解」から「CN実現に向けた活動」へ移行



	CN理解（フェーズⅠ）	CN実現に向けた活動（フェーズⅡ）
事務局 対応	<ul style="list-style-type: none"> ・取組みの必要性の説明ツール(勉強会入門編等)の再送付、電話フォロー等 ・他部会好事例の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・他部会好事例の展開
部会内	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局との連携・役割分担検討 ・部会内でのCN推進の枠組み検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会内でのCN推進方向付け

<議論のポイント>

1. 本部委員会活動

- ・委員会の活動内容共有
- ・LCAは、想定を上回る困難さが今回判明 ⇒ 今後**CN専門委員会**・**環境委員会**等で、**進め方・推進体制**等検討

2. 部会活動

- ・**部会毎に適した進め方**

3. 支部活動

3. 支部活動

3. 支部活動 < #21CN専門委員会 提案 >

- ・まずは**各支部長との相談の場**を設定（7月以降）し相談したい
- ・但し、事前の4支部長ヒアリングの結果からは、以下が現実的対応と想定される
 - ①工場見学会に**勉強会**を併せ実施
 - ②勉強会に**CN専門委/環境委員会**から分科会長や委員が**講師**を務める

= #21CN専門委員会での主なコメント =

テーマ	発言	主なコメント
支部活動	山田 部会長	・本社が中部支部なので年数回は支部活動に参加している。地域会員の存在、支部の中では区別していない。支部に活動展開する以上は、 うまい形を、よく議論 したうえで進める必要がある
	木村 アドバイザー	・ 支部への拡大 は、支部の特徴・進め方等お考えがいろいろあるだろうし、既に 4支部に声かけ したのであれば、 絞っても良い のではないかと。無理のない良い事例ができるし、非会員の枠をどう取り払うか、要望・提案をもっと幅広く取り上げたり、可能性はある。事務局、関係の方で論議いただくとよいのではないかと

3. 支部活動 <状況まとめ>

支部	支部長	状況
北海道	上野	支部連絡会(9/20)での論議 を契機に取組み検討着手 -まずは支部事務局で車工会HPの勉強会入門編3部作視聴から開始
東北	鈴木	2022/11/18 勉強会&工場見学会 を実施 (@トヨタ自動車東日本(株)：松井部長講師)
関東	矢島	関東 支部役員会 (9/13)で役員や東京都・神奈川県会からの勉強会等実施可否につき論議
中部	景井	2023/7/21 勉強会&工場見学会 を実施 (@岐阜車体工業(株)：杉山分科会長講師)
九州	矢野	※支部連絡会(9/20)&工場見学会で取組みを共有

3. 支部活動 <中部支部CN勉強会&工場見学会>

出席会員様

2023年 7月17日
一般社団法人日本自動車車体工業会
中部支部

2023年度 中部支部 新企画の詳細ご案内

「カーボンニュートラル勉強会 & 岐阜車体(株)工場見学」

拝啓 皆様におかれましてはコロナ禍を乗り越えますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
今回は、参加申込ありがとうございます。支部運営ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。
参加者の皆様に 詳細案内をご案内いたします。

— 記 —

日時 **2023年 7月21日(金)13:30~16:30**

参加費用 **無料** (通常は工場見学の一般受入なし)

集合 **岐阜車体工業株式会社【地図参照】**
岐阜県各務原市鷺沼三ツ池町6-455

車 : **岐阜車体 かとれあくらぶ駐車場【地図参照】**

電車: 名鉄各務原線「名電各務原駅」から徒歩1.0Km
: JR高山本線「各務原駅」から 徒歩1.1Km



・26社75名参加

4. まとめ：#23CN (2023年度第3回目)専門委員会に向けて>

①本部委員会活動を着実に推進

—但し、**LCA**については、今後**CN専門委員会・環境委員会**等で、**進め方・推進体制**等検討

②部会毎には、**部会に適した進め方**の検討

③支部毎には、**支部連絡会**等で、**活動の必要性を地道に働きかけ**

以上